精神医学

単位数	履修方法	配当学年
4単位	R or SR	3年以上

科目コード	CQ4140	担当教員	高野 毅久(上)

※2017年度より担当教員が変更になりましたが、レポート課題等に変更はありません。

※2014年度より「R or SR」科目に変更され、スクーリングが開講されています。スクーリングは高野毅久先生〔上〕・滝井泰孝先生〔左〕・西尾雅明先生〔右〕の3名が担当いたします。

■科目の内容

精神障害は紀元前の古くから知られていましたが、科学的な近代精神医学が確立されたのは約1世紀前のことです。そして約60年前に向精神薬が発見されて以来、精神障害の治療は著しく進展し、ここ四半世紀は、精神障害の主座としての脳に関する検査法や研究においてもめざましい発展を示してきました。本科目では、精神医学、精神医療の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とします。さらに、病院精神医療や地域精神医療についても理解を深めます。現代は心の時代ともいわれますが、精神医学の方法や精神障害についての学習を通して、疾患としての精神障害の理解はもちろんのこと、心を科学的に考える方法も身につけるように心掛けましょう。

■到達目標

1）精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。
2）代表的な精神疾患とその治療について説明できる。
3）わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。
4）精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。

■教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー1（第6版） 精神医学』へるす出版、2017年

（最近の教科書変更時期） 2017年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	脳・神経の解剖生理	神経系の発生と構成を理解し、中枢神経系、末梢神経系の構成と機能を知る。	神経系全体を理解し、特に、大脳の構成と機能の理解が大切。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	精神医学の概念	精神医学の方法論と、精神障害の成因と分類を理解する。	了解概念の理解、分類では従来診断による分類、アメリカ精神医学会による分類、国際疾病分類の異同をよく理解する。
3	精神疾患の診断法	診断の手順と方法、症状把握、検査法について理解する。	全体的情報の把握、症状把握（主観的・客観的症状など）、心理検査、身体的検査の検査内容と検査の仕方を中心に学ぶ。
4	精神疾患の理解①症状性および器質性精神疾患	器質性精神障害の急性期、慢性期の症状、認知症性疾患の理解を中心に、その他の器質性疾患をよく理解する。	特に認知症性疾患は今日の高齢社会において急増している疾患なので、個々の疾患の症状などよく理解することが重要。
5	精神疾患の理解②精神作用物質による精神障害	アルコールと、それ以外の依存性薬物による依存の精神症状、診断基準、治療法について学ぶ。	アルコール依存は従来から多いものだが、覚醒剤、麻薬などの薬物依存は急増していて社会問題を引き起こしている。それら薬物の特性や症状、治療としては自助グループの知識が重要である。
6	精神疾患の理解③統合失調症および気分障害	両疾患における疫学、症状、病型分類、経過、予後（特に長期予後）、治療（特に薬物療法を中心に）について学ぶ。	両疾患は原因不明であり、かつ発生率の高い精神疾患である。社会復帰の主な対象である統合失調症、今日世界中で増加している気分障害についてはすべての面での十分な理解が必要である。
7	精神疾患の理解④神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害	社会不安障害やパニック障害、ＰＴＳＤを中心とするストレス関連障害、身体表現性障害についてよく理解する。	若者に多い社会不安障害やパニック障害、震災と密接に関連する心的外傷後ストレス障害（PTSD）などは、今日問題となる疾患であり、それらの症状と原因をよく理解しておくことが重要。
8	精神疾患の理解⑤生理的・身体的要因に関連した行動症候群	摂食障害、睡眠障害の医学的理解。	摂食障害はよく知られているが、単なる拒食・過食ではなく、神経性無食欲症、神経性大食症としてその医学的特徴をよく把握する。また睡眠障害の厳密な理解が必要。
9	精神疾患の理解⑥パーソナリティ障害	境界型パーソナリティ障害を中心に、種々のパーソナリティ障害を理解する。	パーソナリティ障害は社会や対人関係の中で問題を引きおこしやすく、特に境界型パーソナリティ障害の理解は今日特に重要である。
10	精神疾患の理解⑦知的障害とてんかん	知的障害の診断、種々のレベルの分類、原因について理解する。また合併が多いてんかんについてよく理解しておく。	知的障害は療育手帳の対象であり、その重症度分類をよく理解することが大切。またその原因も重要であり、特に原因となる重要疾患についての理解も大切。てんかんについては、原因並びに、種々のてんかん発作について知っておくことが重要。
11	精神疾患の理解⑧発達障害および小児期発症の情緒および行動症候群	学習障害、小児自閉症、アスペルガー症候群についての理解。さらに小児期発症の注意欠如多動性障害の理解。	教育や社会的生活の困難さと関連し、今日注目されている。原因は不明であるが、その病態の理解は必須。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	精神疾患の治療	治療の歴史、薬物治療、精神療法、生活療法などの理解。	種々の疾患に対する薬物療法の具体的知識を学ぶ。また精神療法一般、認知行動療法、リハビリテーションなどの理解が大切。
13	病院精神科医療と地域精神医療	入院治療、外来治療、在宅治療についてよく理解し、精神科救急の現状と課題などの理解。	外来治療と入院治療の実際を学び、在宅医療における福祉との連携についても学ぶことが大切。また精神科救急の現状や課題は、精神疾患の特殊性の観点からよく学ぶことが大切。
14	司法精神医学	司法精神医学の定義、方法、領域について学び、医療観察法について理解する。	犯罪と精神障害の関連について学び、それらを取り扱う医療観察法について理解を深める。
15	精神医学の歴史	精神医学の歴史についての理解。	古代ギリシャにおける精神障害の知識や、19世紀半ばより発展した近代精神医学の今日までの歩みをよく理解することが重要。

■レポート課題

1 単位め	精神科診断における特殊性と「了解不能と了解」、診察の手順、代表的な身体検査、心理検査について説明せよ。 **※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題**
2 単位め	**【説明型レポート】** 下記について各300字以上500字以内で簡潔に説明せよ。 ①器質性精神障害の主な症状について ②心的外傷後ストレス障害（PTSD）とその治療について ③摂食障害とその治療について ④学習障害と小児自閉症について
3 単位め	内因性精神障害である統合失調症および気分（感情）障害におけるそれぞれの症状、病型、経過と予後、治療について説明せよ。
4 単位め	知的障害（精神遅滞）の診断基準、分類、知的障害を引き起こす疾患について説明せよ。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

諸君が精神医学を学ぶにあたってまず想定されるのは、専門用語が多いこともあって理解するのが容易ではないだろうということです。そのような場合は、教科書だけでなく、末尾に挙げた参考図書や、市販の精神医学用語辞典なども参考にするとよいと思います。また、現代は心の時代といわれるほどなので、精神疾患についての科学番組や新聞記事も随分増えています。精神医学や脳科学に関するテレビの番組や新聞の記事なども見るようにして知識を増やすよう努力してください。そのような積み重ねが、精神医学を身近なものにし、理解を助けてくれます。

さて、レポート課題に取り組むにあたって考えておいて欲しいのは、レポート課題を教科書で調べ、それを要求される字数で書き写せばよいというような態度ではいけないということです。課題は４つだけですが、レポート課題にないから重要でないというわけではありませんので、その他の部分もよ

く理解するようにしておきましょう。課題に答える前に、最初に述べたアドバイスも参考にして精神医学を理解しようという努力が必要であり、精神医学全体に対する理解が大切だということを強調しておきたいのです。以上のような点を考慮して、レポートの評価においても、そのレポートが、教科書をよく読み、かつ、教科書以外の方法で得られた知識も駆使して作成されているかどうか、という点を加えて評価します。また、レポートの最後に参考文献（教科書を含む）を必ず記すようにしてください。

精神医学の理解は決して容易なものではありませんが、今ほど精神障害に対する知識が必要とされる時代もないでしょう。正しい知識を持つことによって、精神障害にたいする誤解や偏見などについても考え直すきっかけにするようにしてください。

(注)「統合失調症」は2002年以前に発行された文献では「精神分裂病」と表記されていることが多くあります。「精神分裂病」という呼び名にはマイナスのイメージがあり、差別や偏見を生み出しているのを是正するために、現在では「統合失調症」と呼び名が変更されています。

1単位めアドバイス

この課題は教科書第3章、第4章にわたって書かれています。精神障害は身体障害と異なって形のないものの障害なので、それだけ曖昧だったり困難だったりします。したがって、患者さんの診断する場合、どのような考え方で、どのような診断の手順で進めていくのか、そしてその診断をより確実なものにしていくためにどのような検査を用いて何を調べようとするのか、良く理解するようにまとめてください。その場合、診察の手順は時間的順序にしたがって記述するように配慮してください。また受診時の現在の症状は主観的症状と客観的症状に分けていくらかでも具体例を挙げるとなお良いと思います。

2単位めアドバイス

ここでは、知っておくべき精神疾患のキーポイントの理解を目指しています。①は、教科書第5章のⅠ、②は第5章Ⅴ、③は第5章Ⅵ、④は第5章Ⅸにわかりやすい解説を見いだすことができます。全ての課題で症状を中心に述べるようにしていますが、精神疾患はその精神症状に把握によって診断されるので、自ずと精神疾患の理解につながります。②と③では治療についても述べるようにしてください。

3単位めアドバイス

内因性精神障害は身体因が想定され少しずつ解明されてきていますが、未だ原因不明な疾患（第3章Ⅱ）で、ここで挙げられた2大疾患がそれに相当します。それだけに、症状、病型、経過と予後が大切になります。ここでは、統合失調症と気分（感情障害；躁うつ病）に分けてそれぞれまとめるようにしましょう。教科書の第5章ⅢとⅣに書かれています。また治療についてもそれぞれ要領よくまとめるようにしましょう。

4単位めアドバイス

知的障害（精神遅滞）は、1993年における障害者基本法成立のはるか以前に福祉の対象となっているので、精神障害と区別されている印象を持つかもしれませんが、精神保健福祉法までの全ての法律における精神障害の定義に銘記されているものです。ここでは知的障害について医学的側面からしっかり理解することを心掛けてください。第5章Ⅷによく書かれています。

■科目修了試験　評価基準

まず課題の理解が大切です。次に課題に対する解答が指定のテキストの内容理解を基礎としているかどうかが大切です。したがってテキストにある重要な用語や概念を用いて適切に答えているかどうかが評価の上で重要になります。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「レポート作成力」を身につけてほしい。

■参考図書

1）日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療』中央法規出版、2016年

2）大熊輝雄原著　第12版改訂委員会編集『現代臨床精神医学　第12版』金原出版、2013年

3）その他精神医学関係の図書